

秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。  
<http://www.city.akita.akita.jp/>

# 市長のほっこりコラム

市長 佐竹敬久



7月8日の秋田市消防団消防操法大会で

## プロ不在の危うさ

最近、悪質な犯罪とは異なるもの、さまざまな重大な問題や痛ましい犠牲者が出る大事故が頻発しています。それらの出来事がある角度から見ると、共通したひとつの側面があるように感じられます。

それは、プロの不在、あるいは関わった人のプロ意識の希薄さです。

東京の温泉のメタンガス爆発を例にとれば、ほんの初歩的な科学知識があれば危険性があることはすぐ分かり、多重安全システムは不可欠との結論に達したはずですが、責任分担が明確でなかったという次元以前の問題として、施工・管理に携わった人に問題意識が生じなかったとすると、素人の仕事ということになりました。

もし、分かっている経費削減のために手を抜いたというのであれば、経営者とともに、関係者はプロの風上にも置けないということになります。

新興の急成長企業の福祉産業部門の不祥事も、プロ不在そのものです。

従業員は介護のプロですが、経営陣には金もつけのプロはいても福祉のプロはいないようでした。福祉の



何事にも、プロの目、プロの技術が大切です。  
(川尻町大川反の(株)船木鉄工所)

プロであれば、当然に民間事業者としての健全経営を追求しつつも、福祉という公共的側面を担う立場としての一定の問題意識が働くものではなかったかと思えます。

年金記録の問題も年金を扱うプロとしての意識の欠如から生じたものといっても過言ではないでしょう。

公務員の仕事にもミスはあるものの、あまりの「わっばか仕事」、上から下まで、よくぞ給料をもらっていた

ものと言わざるをえません。

我が秋田市役所においても、いささかプロらしからぬことが間々散見されますので、他山の石として職員のプロ意識の徹底に努めます。

さて世の流れは、現場無視の改革病が蔓延し、規制緩和による過度な自由競争、不安定な雇用制度への移行や経費削減のための熟達者の軽視などにより、責任を担える知識・経験を積み重ねたプロの存在という面が危惧される状況になってきました。

プロという言葉は、芸能やスポーツの世界だけのものではありません。

社会は多くの分野のプロの存在で成り立っています。職人さんであれ、学者や公務員であれ、それぞれの知識・経験、技術・技能により、仕事への誇りと責任を持って社会の一員としての役割を担うからこそ、社会が前に進むのではないのでしょうか。

多くの国々がプロの育成を国家目標としているとき、何故こうなったのか責任の所在はどこにあるにせよ、日本がプロ不在の国になりつつあることに危うさを感じる頃です。

秋田わか杉国体まであと57日！

# 国体迫る！

国体本番に向け頑張っている選手や、まごころいっぱい为国体にしようと活動している人たちを紹介します。

## ライフル射撃

金昌千世さん

(秋田県警察機動隊 43歳)



ライフル射撃は的の中心(10点)を狙い、弾の当たった場所の点数の合計で争う競技です。高い集中力を必要とする競技で、射撃台に立った瞬間から勝負は始まっています。現在は、国体本番で緊張しないように、常に本番をイメージしながら練習に励んでいます。

全国から集まった選手が、今まで努力してきたことすべてを1発1発にこめて競う大会。みなさんもその緊張感をぜひ生で味わってください。



25メートル先の的に神経を集中



ご協力ありがとうございます



国体のライフル射撃競技に陸上自衛隊第21普通科連隊のみなさんに協力していただくため、7月10日、「覚書交換式」が行われました。日ごろ銃器を扱っている自衛隊のみなさんのおかげで、ライフル射撃競技会を安全に進行することができます。



## まごころで選手を歓迎します



### きれいな花で迎えます

市内の小学校では、全国から集まる選手たちをきれいな花で迎えるため、競技会場に飾る花をプランターに入れて育てています。7月18日、金足西小学校では、プランターに張るシールを作成。「全力でがんばって！」「秋田を楽しんで

ください」など心のこもったメッセージを書きました。子どもたちの優しい気持ちが競技場を温かく包んでくれそうです。

### スギッチマスコットをどうぞ

太平中学校では、PTA活動の一環として、親子でフェルト製のスギッチマスコットを作りました。出来上がったマスコットは、サッカーとラグビーの16チームへプレゼントする予定です。いろいろな表情、いろいろなポーズをしたスギッチ。国体の選手たちにとって秋田のいい記念になることでしょう。



## 国体のシンボル 炬火灯る



8月5日は竿燈大通りで炬火リレー

7月15日、御所野の地蔵田遺跡・弥生っこ村で、国体の「炬火採火式」が行われました。「炬火」とはオリンピックの聖火にあたるものです。観衆約600人が見守る中、弥生っこ村のボランティアのみなさんが、大型マイギリを使った昔の方法で火を起こしました。

8月5日(日)は竿燈まつり会場から市役所まで、この火を使って、総勢78人のリレー隊が「大会旗・炬火リレー」を行います。午後6時40分スタート。ぜひご覧ください。